

6年2組 外国語活動指導案

令和元年6月21日
益田市立高津小学校
指導者 大畑 崇

1. 単元名 **人物当てクイズを作ろう**
He is famous. She is great. (We Can! 2 Unit3)
2. 単元目標
 - ・他者に配慮しながら、第3者について伝え合おうとする。(コミュニケーションに対する関心・意欲・態度)
 - ・語順を意識して、自分のことや第3者のことについて伝え合う表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
 - ・「主語+動詞+目的語」の文の語順に気付く。(言語や文化に対する気付き)
3. 言語材料 I am (Ken). I [like / play] [the violin / baseball]. I [have / want] a new [recorder / ball]. I eat (spaghetti). I study (math). I can [swim / cook / skate / ski / sing / dance]. I can (play baseball well). Who is this? [He / She] is [famous / great].
Famous, nut, old, 身の回りの物 (racket) , jungle
[既出] he, she, 動物、飲食物、スポーツ、身の回りの物、教科、動作、状態・気持ち

4. 基盤 (児童観)

〈個人情報保護のため省略〉

(教材観)

本題材は、児童が英語の文の語順に気付き、そのことを意識しながら、自分たちがこれまでに慣れ親しんできた語句や表現を使う体験ができる。文の仕組みを理解し、自分たちで言葉をつなぐことができれば、児童は自分の言いたいことを表現することができる。また、相手の表現していることをより理解できるようになり、より豊かにコミュニケーションが図れるようになる。言葉でやり取りをする楽しさ、すばらしさを感じながら、今後の分析的な文の構造の学習に繋がっていけば、より深く自分たちの言いたいことを自分たちの力で表現したり、相手が表現していることを理解したりできるようになると考える。

(指導観)

本単元では、これまでに音声で慣れ親しんできた文を取り上げ、どのような語順になっているのかに気付き、それを意識して話したり書いたりできるようになることを目指す。その目標達成に向けて、第1次では音声で慣れ親しんできた基本的な表現を可視化させたものに十分見慣れさせる。第2次に向けて、文の目的語にあたる語彙にゲームを通じて見慣れさせる。第2次では動詞や目的語を可視化したものを使って英語の語順に気付かせ、第3次の語順を意識した「人物当てクイズ」の活動につなげていく。単元全体を通して、電子黒板を使って活字体を提示したり、ALTと連携した活動をしたりすることで、児童が語順に気付き、それを生かして文を作る活動を取り入れていく。

5. 単元の指導計画と評価規準

単元のゴールとなる児童の姿：語順を意識して、話したり書いたりすることに慣れ親しんでいる。

次	時数	主な活動	コ	慣	気	評価規準
1	1 (本時)	・デジタル教材を視聴したり、 音声を聞き取ったりする。 ・ゲームを通じて、様々な語彙 に慣れ親しむ。		○		・音声で慣れ親しんだ表現を文字にしたものに慣れ親しんでいる。 <行動観察・振り返りカード>

2	2	・デジタル教材を視聴して、絵カードを置いて英文をつくる。			○	・英語の語順に気付き、語順を意識して文を書き写すことに親しんでいる。 <行動観察・振り返りカード>
3	2	・「人物当てクイズ」を作り、出題する。	○	○		・語順への気付きを生かして、文を作ることに親しんでいる。 <行動観察・振り返りカード>

6. 本時の学習 Unit3 He is famous. She is great. (We Can! 2) 1/5 時間

(1) ねらい

音声で慣れ親しんだ表現を、文字であらわされたものに慣れ親しむ。

(2) 展開

時間配分	児童の活動	指導者の活動	活動の種類	準備物
5	・挨拶をする。 ・めあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">文の順番を見てみよう</div>	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・本時のめあてを全体で読んで確認する。	TSS TS	
15	【 Let's Watch and Think】 P.18 ・デジタル教材を視聴し、誰のことかを考えて□に番号を記入し名前を書く。	・映像や音声を使って、文章に興味を持たせる。 ・名前の書き方を確認する。	TSS	デジタル教材
15	【 Let's Play】 P.19 ・音声を聞いて、文章を指さす。	・飽きないように工夫し、何度も基本の文を聞かせるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">基本の文に慣れ親しむ【慣】 <行動観察、振り返りカード></div>	TSS	デジタル教材
10	【 Let's Play】 P.20 ・キーワードゲーム ・ミッシングゲーム	・カードを使って、英単語に慣れるようにさせる。	TSS S-S	カード
5	・本時の活動を振り返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・振り返りカードの書き方について確認する。 ・挨拶をする。	TSS	振り返りカード

(3) 評価規準

十分に満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足と判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
基本文の内容を正確に理解し、文の構造に着目しながら、指で文を追うことができる。	基本文の内容を理解し、指で追うことができる。	基本の文を繰り返し聞き取らせ、絵をヒントに考えさせる。

(4) 授業研究の視点

- ・文や単語に慣れ親しむために、デジタル教材やカードの活用の仕方は適切であったか。